

(令和2年6月試験研究業務月報)

試験研究課題：開発農地における新規作物の導入

(2)秋期畝立てマルチ越年春作付け-初夏出荷体型を実現する施肥技術検討

研 究

初夏どり加工用ハクサイの省力施肥技術

丹後開発農地では加工契約野菜の導入が推進されており、加工業者から要望が多い漬け物等向けハクサイの4月～6月中旬出荷を検討しています。例年1月～3月中旬は積雪や融雪水の影響では場での定植準備作業を行いにくいいため、肥効調節型肥料※を利用し、秋期に施肥と畝立てを行い春に定植する基肥全量施肥技術を開発しています。

昨年秋期に溶出タイプの違う数種の肥料を施し、4月に定植したハクサイの収穫時調査を、6月17日に実施しました。

今後、肥料の土壌への溶出程度を調べ、ハクサイの収穫調査の結果と合わせて最適な肥料を選定します。

※肥効調節型肥料：肥効を長く持続させるため、さまざまな方法で肥料成分の溶出を調節した化学肥料のこと



溶出した肥料養分を分析するために土壌を採取